

## 【実践報告】

# 「教育実習Ⅴ・Ⅵ（中・高）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 石 原 義 文

教授 岡 利 道

准教授 猪 川 優 子

## 0 はじめに

教育実習Ⅴ・Ⅵは中学校教員及び高等学校教員としての適性を確認し、その資質を伸張するために行われるものである。大学で学んだ理論と教育現場での実践がどのように関連するかを実習で学ぶ。実習校で実習校教師の指導のもとに、授業参観、教材研究、授業実施、学級指導などを行う。本実習に参加するまでに、本学でのガイダンス、実習校との連絡など重要な手続を忘れずに行わなくてはならない。

## 1 教育実習Ⅴの実際

- 実習前のガイダンス（2時間）
- 実習校での実習
  - 1. 実習校でのオリエンテーション（2時間）
  - 2. 授業参観（78時間）
  - 3. 教材研究（20時間）
  - 4. 授業担当（20時間　うち研究授業1時間）
  - 5. その他校務担当
  - 6. 事後学習　学内で報告会を実施

## 2 教育実習Ⅵの実際

- 実習前のガイダンス（2時間）
- 実習校での実習
  - 1. 実習校でのオリエンテーション（2時間）
  - 2. 授業参観（38時間）
  - 3. 教材研究（20時間）
  - 4. 授業担当（20時間　うち研究授業1時間）
  - 5. その他校務担当
  - 6. 事後学習　学内で報告会を実施

### 3 実習先概要

計27校（県別内訳）

広島県	英語科	9校	国語科	8校	島根県	国語科	2校
鳥取県			国語科	1校	福岡県	国語科	1校
大分県			国語科	1校	熊本県	国語科	1校
佐賀県			国語科	1校	高知県	国語科	1校
兵庫県			国語科	1校			

### 4 学生の報告書より

- ・教師は生徒の個性や能力，その時の状態などを把握することが何より大事だと感じた。生徒の状況を見て，その都度アプローチの仕方を変えたりして授業を進めていくことが大事だと思った。この教育実習を通して，自分がなぜこの教科を教えたいのか，どのように生徒に関わりたいのかななどを考えて，これからの教育活動に活かしたい。
- ・色々な教科の観察授業を通して，生徒主体の授業作りが主流になってきていると感じました。先生が一方的に説明して生徒がメモをとるスタイルではなくて，生徒に考えさせながら定着をはかるというスタイルは新鮮でした。
- ・この3週間の教育実習を通じて，教師としてどうあるべきかについて多く学ぶことができた。まず教科指導については生徒たちと信頼関係を築き，授業を一緒に作っていくこと，そして習熟度やクラスの雰囲気に合わせて，授業構成や発問の仕方を工夫することである。教育実習で学んだことの中でも，特に重要だと思ったことが，生徒と信頼関係を築くことである。どの先生方も，何よりも生徒の気持ちに寄り添い，向き合おうとすることを第一にしており，そのおかげで生徒たちも教師を尊敬し，前向きに授業ができていると感じた。
- ・自分の専門教科の力不足を痛感した。大学に戻ったら，英語はもちろん指導法についても更に深く学びたいと思った。「分かる」と「教える」の違いにこんなにも大きなギャップがあるということに気付かされた。知識だけ頭の中にあってもそれだけでは意味がない。生徒の実態・状況に合わせて，授業作りを考える必要があると思った。
- ・一番感じたのは，「知識不足」「準備不足」だった事です。準備をすればするほど，大丈夫だろうと思っていましたが，そんなことはありませんでした。準備をしても「足りない」と感じてしまいます。大学で学んだ事がここで響くなど改めて実感しました。文法だけではとてもではないですが実習は乗り越えられない事に気づかされました。分からない事だらけで，教壇に立つのも怖いと感じたこともありました。ですが，生徒の言葉や，指導教諭や同じ科目の先生方にたくさんアドバイスを頂いたおかげで「頑張ろう」と思う事ができました。教壇に立つ怖さを無くす事ができるように，残りの大学生活で貪欲に知識を増やして，現場で堂々と授業ができるように，この3週間で得たことを，今後に生かしていきたいと思います。

## 5 成果と課題

感染症も落ち着きを見せ、学生が全て希望する実習先で実習を体験することができた。学生たちの報告書には、実習で得た生徒たちとの触れ合い、指導教諭からの励ましへの感謝など、今後の成長に期待できる前向きな感想が記されている。教育実習で得られた成果や課題を、大学での学びにどのように活かしていくか、学生はもちろん大学側も実習後のあり方について考える必要がある。学生は教育実習で教育現場を垣間見たことで、大学での授業・研究にも問題意識をもって学ぶことの必要性を感じている。これまでの4年間の指導体制を見直し、実習後の指導のあり方についても、より実践に即した指導が求められる。